滿洲日報

皇軍の溝帮子占據 けふ午後とならん

敵前十キロの地點に夜營し 今早朝、攻擊を開始

三十日午後三時五十分前線より大石橋に歸來した第〇〇中隊偵察機の報告に依れば皇軍の最前線と溝帮子の間はなほ十キロあり、皇軍は三十一日午後には溝帮子を占據する見込みである【大石橋電話】

わが若松騎兵聯隊並びに裝甲列車隊は三十日夕刻溝帮子の程遠からぬ地點まで進擊したが、本日はそこで夜營して三十一日早朝溝帮子の攻擊を行ひ正午までには溝帮子に入城の筈である【奉天電話】

多門師團の先鋒部隊は三十日午後五時半頃溝帮子東方十キロの趙家屯附近にまで進擊した溝帮子を攻略するのは三十一日の見込みである【奉天電話】

多門師團の主力部隊 溝帮子に向け進擊す

武勳の若松騎兵隊を先驅

【盤山三十日發】盤山に宿營した多門〇師團主力は三十日午前七時宿營地を出發、盤山、溝帮子街道を前進し北寧沿線匪賊討伐第三日目の行動を開始した、これより先昨日の盤山一番乘りの榮譽に輝く騎兵〇聯隊長自ら指揮する若松騎兵隊と裝甲列車は今日もまた溝帮子一番乘りをして呉れんと午前五時勇躍先驅した

早くも我騎兵隊遭遇戰

溝帮子を攻略せば匪賊は袋の鼠

三十日午前八時三十分〇〇飛行場を出發した濱田中尉、柴田軍曹の操縱する偵察機は同九時半頃歸來したが、右偵察機の報告によれば溝帮子東南方二十粁の地點田水坨及び東馬廠間には敵の戰線が續いてをり既にわが先發騎兵隊と交戰中である、また盤山、溝帮子間の鐵路上には敵の軍用列車並に裝甲車が運轉されてゐると、この報告に接して爆擊すべく輕爆擊機二機は同十一時四十分出發した、尚わが軍は盛んに溝帮子に進擊してゐるが遲くとも三十日中には溝帮子を攻略すべく、さうなれば奉天以西より新民にかけて集結してゐる錦州軍の操縱する多數の匪賊は袋の鼠となり一擧にこれを殲滅するに至るであらう【大石橋電話】

敵兵死體 百餘を遺棄

【大連二十九日發】盤山の激戰で盤山は敵が北寧支線最後の守りとしてゐただけ塹壕等も半永久的に構築し防禦設備の立派さには我軍も驚嘆して居る程である、戰線は鐵道線路を中心に左右二里に亘り敵の總數約二千名、裝甲列車及び野砲數門を以て頑強に抵抗し特に敵野砲及び裝甲列車よりは我飛行機に對し猛射を浴せた、敵は退却に際し死體百餘を遺棄せるところより見て敵の損害は頗る大きいもの、如し

營口盤山間の 鐵道開通

二十九日夕我軍の盤山戰鬪と同時に我〇〇鐵道隊の手によつて鐵道の應急修理完成し營口、盤山間の鐵道は早くも完全に開通した

盤山遺棄の 敵兵匪死體

盤山附近の戰鬪において遺棄せる敵兵匪の死體を檢査したところ左の事實が判明した

陸軍獨立第十九旅步兵第六百五十四團迫擊砲中隊中尉耿憲章同じく第六百五十四團迫擊砲中隊一班二等兵孫文科、同じく馮順【奉天電話】

盤山戰で負傷 の二勇士容體

盤山戰で負傷した高橋一等兵は未だ言葉を發し得ぬ程の重態であるが生命には別條なき模樣、また片岡軍曹は杖に縋り步行が出來る程で頗る元氣である【營口電話】

北寧線の戰端ひらく

第〇〇旅團約三十分に亘り交戰 白旗堡方面の敵兵擊退

三十日午前八時五十分わが第〇〇旅團の裝甲車隊は敵を西方に壓迫の後白旗堡占領、次いで同九時三十分自動車隊來着し相合して前進、同十一時繞陽河着、此處に主力の集結を完了し第〇〇旅團長以下意氣大いに揚り直に打虎山へ進擊に移つた【奉天電話】

【三十日巨流河にて島田特派員發】三十日午前九時頃殷々たる砲聲白旗堡方面に當り零下二十度の寒氣に凍れる空氣を衝いて約三十分間猛烈に鳴り響ける後ハタと止んだ、右は三十日午前六時新民を出發したわが第〇〇旅團が北寧線上の第一次衝突戰にて敵兵間もなく擊退されしものと推定さる、これと殆んど同時刻奉天發の第〇〇聯隊及び野砲隊續々來着、將兵の意氣益々昂し

皇軍破竹の勢ひ わが猛擊に匪兵潰走

〇〇〇飛行場駐屯第〇中隊の三十日午後偵察機の報告によれば第〇師團主力は盤山を出發し胡家窩舖に進擊してゐる 第〇聯隊は破竹の勢を以て前進を續け午後二時半厲家窩舖まで進出し、裝甲列車は午後二時には既に打虎山にあつたと【大石橋電話】

【三十日白旗堡にて西村特派員發】白旗堡にあつた約二千餘名の匪兵は三十日嘉村旅團が北寧線に沿ひ進擊するや戰はずして彰武縣及び阜新縣の北方に逃れ第五路司令觀如は部下三千と共に白旗堡の北方五十支里の後腰舖方面に潰走した、また迫擊砲二門を以てわが裝甲列車に對し健氣にも頑強な抵抗を試みた、耿繼周を司令とする別働隊第四路軍はわが軍の猛烈なる追擊のため滅茶々々に擊破され潰走した

皇軍打虎山に入る

わが第〇〇旅團の先發隊は卅日午後二時打虎山に入つた【奉天電話】

わが軍は同日午後三時十分復舊作業に着手し午後六時頃完成した【奉天電話】

支那正規兵 橋梁破壞

關東軍司令部發表＝三十日正午頃支那正規兵は打虎山東方約一キロの第二十四號橋梁を破壞した、これがため後方橋礎は一部破損、また前方橋礎は全然崩壞してゐる

錦州軍の戰備 全く整ふ

錦州方面視察外人の話

【天津二十九日發】錦州方面を視察して歸來した某外人は天津で語る

錦州にはあらゆる戰備整ひて居り大凌河一帶には極めて堅固な防禦陣地が築造されてゐる、更に冬籠りが出來る塹壕も完成して居り支那軍は乾坤一擲の戰爭を覺悟してゐる模樣である

軍用電話線 修理班出發

田庄臺、大窪間の軍用電話線切斷され前線との連絡不能となつたので今朝九時河北から修理班を急派した【營口電話】

飛行場設置で 偵察班出發

今川大尉の指揮する飛行第〇、第〇兩中隊の偵察班は溝帮子に飛行場を設置すべく三十日の午前九時河北驛發軍用列車で同方面に出動した、又田庄臺に駐屯せる大石橋守備隊第〇大隊〇中隊の主力も同列車で盤山に向つた【營口電話】

わが空軍盛に活躍 敵の裝甲列車を爆擊

皇軍の意氣愈よ昂し

卅日午後零時半〇〇〇飛行場を出發した大西大尉、勝根大尉、成富大尉、熊田軍曹の二機編成よりなる偵察機の報告によると北寧線上は東行する汽車一臺もなく今は西へ〳〵と運行を續けてゐる、錦州驛には二十二車輛、四十四車輛よりなる列車あれども機關車なく午後一時二十分頃二十五車輛よりなる客車が急速力を以て西へ向つてゐるのを發見した、同編隊機は第〇聯隊及び第〇師團と連絡を執り翼、機關部に敵彈十數發を受けたが同三時五十分無事〇〇〇に歸還した【大石橋電話】

〇〇〇飛行第〇中隊飯田編隊長の指揮する二機（飯田大尉、八木中尉、村田少尉、鈴木軍曹搭乘）は三十日午後一時出發した、輕爆擊機は同二時前後して溝帮子において敵の裝甲列車を爆擊し多大の損害を與へ、なほ線路を破壞して敵列車の後退を不可能ならしめた、また同機の報告によれば第〇師團司令部は三十日正午頃盤山西北胡家窩舖附近まで進出してゐる、わが軍の裝甲列車主力は午後零時半頃東沙河線の敵を壓迫し目下激戰中である、同編隊機は午後三時十分無事〇〇に歸還した【大石橋電話】

馬賊主體に 義勇軍

關東軍司令部發表＝第〇師團長よりの報告に依れば田庄臺、盤山間の實情を見るに官兵將校以下たる馬賊を基幹軍として招撫せられたる馬賊を主體として義勇軍第二路を編成し對日交戰に努めつゝあり、而して馬賊の頭目は各々相當な軍隊的地位を與へられてあるがその實質は純然たる匪賊であつて彼等は金品を奪ひ人質を取る等は勿論、沿道の婦女子は悉く彼等に冒されて生色無く土民は孰も口を揃へてその慘狀をわが軍に哀訴し來たる狀態である【奉天電話】

山海關に 戒嚴令

皇軍驛を警戒

【山海關三十日發】錦州軍の關內撤退開始に依り山海關は俄然緊張を呈し支那街は昨夜六時より戒嚴令布かれ第九旅は事變勃發警戒の爲め市中に配備された、この間我が監視兵は少人數で山海關驛警戒の任につき皇軍の士氣盛なるを示してゐる

張學良が 泣きつく

我北平公使館に

【北平卅日發】張學良は三十日正午我が公使館に使者を派し錦州軍は總撤退を爲すに就き

一、撤退軍を追擊せぬこと
一、錦州軍の撤退後直に日本軍を同地に入れぬこと
一、山海關以西では撤退を阻止する行動をとらぬこと

等の條件を出し日本政府への傳達方を乞ふた

朝鮮部隊

ゆふべ奉天着

滿洲に出動を命ぜられた朝鮮第〇師團の將卒は三十日午後七時十分を先着に夜半二時五十分までに六ケ列車で着奉した、驛頭官民多數の盛大な出迎へを受けてこれ等精銳なる部隊はそれ〴〵宿營に入つた【奉天電話】

南京政府の 外交方針

【上海三十日發】南京來電によれば統一なつた新政府始めの中央政治會議では錦州問題その他の外交問題及び一中全會議より交附された外交對策に就き協議したが、結局政府の外交方針を變更せず即ち

一、國際公理に鑑へ事態の擴大を防止する
二、外國の侵略に對しては正當防備上これに抵抗する
三、東三省は確實に國民政府の管理下に置き如何なる困難に遭遇するも變更せず

の各條項を決議し右の旨學良にも電命した、なほ特別外交委員會では滿洲事變に對する具體的對策を決定したほか近く宣言を發表し事變の眞相を宣布し聯盟及び各國民の注意を喚起するさ

各部々長も 決定す

【南京二十九日發】新政府の各部々長は左の如く決定した

外交部長　陳友仁
財政部長代理　黃漢樑
交通部長　陳銘樞
鐵道部長　葉恭綽
陸軍部長　何應欽
海軍部長　陳紹寬
教育部長　朱家驊
司法部長　羅文幹
內政部長　李文範
實業部長　陳公博
參謀總長　朱培德
訓練總監　李濟深
軍事參議院々長　唐生智
軍政委員會主席　石青陽

盤山の激戰から

山口特派員撮影

(1) 穀家舖附近を進む我裝甲自動車隊 (2) 双臺子河岸で應戰するわが步兵部隊 (3) 八里舖の城壘で敵狀を觀測するわが兵 (4) 盤山から傳書鳩に原稿を託して放つ神藏（右）藤井兩特派員……【二十九日發】

社説

昭和六年は逝く
新滿蒙の爲に記念す可き事

今年の我國は各方面に於て多事多端であつた。但し最大事件は滿洲事變たる事云ふまでもない。實に我國民生死の大問題で殊に滿洲在住の吾々には切膚の問題である。思へば滿蒙問題は我國の爲に久しい間の懸案であつた。近來の奉天政權及び南京政府の、日本に對する無法な態度が益々募るにつけても、我國は此懸案をもつと早く解決せればならないのであつた。然るに今度の事變の結果、解決の曙光を見るに至つた。是れ我國民の大陸發展に關する今年の收穫である。吾人は先づ以て之れを祝福せればならぬ。

◇

九月十八日、張學良氏の正規兵が我滿鐵線を破壞した事。それが動機となつて我軍隊の活動となり、舊政權の打破となつた。此處に滿蒙の住民は、彼等の搾取者壓制者たる、張氏一派の桎梏より解放され、其結果此地に新政權が生まれた。新生政權は各地に發生したばかりで、未だ十分に固まらず、又全滿の統一も取られて居ないが、併し近く統一の機運に向ふ可きは、固より推測し得る。新政權は住民の利益を代表するものである。住民を指導するに足る可き知識階級の把握する所であらねばならぬ。彼等は何等かの形式に於て新善政權を樹立せんと努力するであらう。滿洲三千萬の住民は今や、如上の希望を抱きて此年を送る。吾人は彼等の爲めにも亦之れを祝福する。只此希望を十分に活かし得るや否やは、一に三千萬の決心如何にある。又其指導者の熱誠と手腕如何に係る。吾人は彼等が、來る年に於て、發奮努力、以て此希望を空しくせざらん事を祈つて已まない。

◇

日本は元來、滿蒙の住民と慶福を共にする事を其方針として進んで來た。此方針によりてのみ、此地に於ける自己の國防、及び國民生活の目的を達し得るとの信念を持つ。故に住民を虐ぐる政權者とは利害相反する。舊政權が事毎に日本を排斥せんとしたのは、自家の暴虐が、人民に正視さるゝのを恐れ、愛國の假面を自己の保護色となし、暴虐の名を日本に着せて、人民の心目を眩ます爲であつた。然るに我國の軍事行動によつて、日本と民衆との間に介在した舊政權は無くなつた。三千萬の民衆は、此處に日本を正視する事が出來る。我國は此處に於て、彼等と慶福を分つ事を明瞭に、彼等に示し得るに至つた。新政權が住民の利益を代表する限り新政權と日本國民とは、此處に安心して手を握る事が出來る。

◇

今や、滿蒙方面に於ける日本國民の眼前に横はつて居た陰鬱な濃霧は消散した。滿蒙問題は解決の曙光を見出した。茲に日本國民の多年の希望たる、日滿兩國民共存共榮の障碍が除かれた。斯くて新生政權を助けて、世界の樂土新天地を開拓せる事は、來年の我國の任務である。之れには國際關係、匪賊の討伐新政治の建設等に渉つて、日本自身の爲す可き事、新政權を援助す可き事、多事多端に渉つて困難が甚だ多い事は固より覺悟せればならぬ。吾人は此覺悟の上に、今年滿蒙問題解決の曙光を認めたるを悦び、來年之れが達成の希望に燃えつゝ、此處に昭和六年を送る。

奉天省城民を擧げ兵匪殲滅の大デモ
元旦を期して大々的に

奉天省城民衆全體殲匪運動會は奉天省政府、自治指導部、市政公所奉天省城商工農各團體主催の下に一月一日大々的に擧行されることになつた、先づ午前八時各法團總代二千は奉天市商會門前に集合し隊伍を編成し午前十時樂隊を

先頭に 二十隊は商會門前から四平街、小西門、小西邊門を經て商埠地に出で各國領事館區域を過ぎ附屬地十間房から加茂町に出で軍司令部前を經て忠靈塔に參拜し、歸路は千代田通から商埠地大馬路――南市場――大西邊門――大西門等を過ぎて省政府門前を通り商會門前に歸着解散することゝなつてゐる、尚宣傳ビラ二萬枚、ポスターには「打倒錦州政府」「掃蕩亂心兵匪」「希望日本軍肅清遼西」「日本軍的武力是東北平和的關鍵」その他十數のスローガンを書き込んだもの

四萬枚 を印刷しポスターは前日迄に省城、商埠地、附屬地の各所に貼布することゝ、徒歩隊のほかトラック、乘用車等の自動車隊を編成しこれに演説隊を分乘せしめ要所において簡單なる打倒錦州政府の演説をなさしむることゝ軍司令部前にて匪賊討伐に關する請願書の捧呈式を行ふことゝその他詳細を決定した【奉天電話】

愛國の赤誠
涙ぐましい献金の數々

大連朝日小學校五年一組富田祥一、滿元嘉一の二名は割箸、マッチ、一便箋等を賣つて金三圓二十四錢を献金

◇同校五年一組中川、後藤の二名は金二圓四十四錢を

◇同校唐澤義寛、徳田季重、宮崎弘竹内達雄、竹内誠吉の五名は鉛筆用箋を賣つて金四圓六十錢を

◇芝栄尋常高等小學校生徒一同より金二十圓也と慰問袋十二個を

◇大連 日小學校六年二組杉浦忠、南重滿の二名はお菓子を賣つて金七圓十六錢を

◇同校五年一組奈良、富田、山村、佐野、米良、小倉、永濱の七名はマッチ、石鹸を賣つたお金五圓十錢を

◇大連松林尋常小學校六年福島稔は金光教從兒園の應援を得て、ローソクを賣つたお金十圓八十九錢を

◇大阪商船パリイ丸士官一同より金十八圓五十錢を

◇大連滿電課運輸係員一同より金六十圓を

◇大連高田愛次より金十圓を（以上出動軍人）

◇大連滿電電鐵課運輸係員一同より金三十圓を出動警察官に

有難き思召
感激に堪へず
兩陛下の眞綿御下賜に就て
塚本關東長官の謹話

【東京特電三十日發】塚本關東長官謹話

今般、皇后、皇太后兩陛下よりわが關東廳州外勤務警察官に對し眞綿の御下賜を辱う致しました、畏くも有難き思召の程畏々感泣し奉る次第であります、謹みて案じまするに滿洲事變勃發以來わが關東廳警察官が滿洲警備の第一線に起ち、皇軍支援の下に日夜酷寒を冒し職務に盡瘁致せるの情が畏くも雲上に達し

この有難き御沙汰を拜しましたのはわが關東廳警察官の無上の光榮でありまして同時にまたその職責の愈々重大なるを覺えるのであります、二十九日私は宮城及び大宮御所に參内致し謹みてお禮を言上仕りました、畏き思召しを拜し有難さに感激、感泣致し益々死力を盡して報國の至誠を致し皇恩の萬分の一に酬い奉らんことを庶幾する次第であります

大連の上空を重爆機飛ぶ
轟々の爆音勇ましく
鮮やかな演習飛行

長距離耐寒飛行演習のため來連中の濱松第七飛行聯隊重爆機三機は三十日午前九時から交るく周水子飛行場を離陸し研究および準備飛行を行つた、卽ち九號機には黑田大尉ほか五名、十四號機には原大尉ほか五名各搭乘し場附近を飛行し八號機には笹尾中尉ほか五名搭乘し場内を一周の上機首を南に向けて大連上空に飛來し折柄の寒天に爆音轟々銀翼を輝かしながら悠々旋回して鮮かな飛行振りを示し、周水子飛行場に歸還した、この飛行時間約四時間頗る好成績を示した、なほ三十一日も早朝より試驗飛行を行ふ筈である

海軍の警戒隊
再び塘沽へ

塘沽に向け出發した海軍警戒隊五十名は荒天浪高いために一旦旅順に引返したが再び三十日午前九時榊島丸で塘沽に向け出發した

本社の新年懸賞寫眞
秀作四點を採用

恒例の本紙新年懸賞高點募集は去る二十日をもつて締切つたが大連はじめ奥地滿鐵沿線から續々應募し來りその點數實に百四十三點の多きに達した、依つて係員は三十日これが嚴選を行つたが、藝術寫眞として賞讃すべき作品は相當に多かつたが新聞寫眞として選に入るものなく遺憾ながら左の諸氏の作品四點を秀作として採用し三等賞金五圓をそれぞれ贈呈することに決定した

▲「寒暖の交差」大連市沙河口巴町一〇七佐内潤外

▲「本溪湖河岸の春」四平街取引所内安武康希

▲「猿廻し」奉天橋立町十四高松麗光

▲「新春の喜び」大連市松林町三〇萬玉榮次

新民驛に到着のわが精銳
×印は中島聯隊長

治外法權の撤廢
實施を延期
對內外問題の紛糾で

【南京二十九日發】國民政府は二十九日國府緊急令を以て本年五月四日發布による治外法權撤廢實施は對內外問題の紛糾事態により實行不可能なるに鑑み明年一月一日よりの實行を暫く延期すると發表した

抜刀敵陣に躍り込み
勇まし盤山一番乘り
戒田騎兵隊の獅子奮迅、轟く砲煙
卅日盤山にて 藤井、神藏特派員發

戰家舗に一泊した多門第〇師團長麾下の皇軍はいよく明日（二十九日）敵の根城である盤山に向ふのだと云ふ異常な緊張ぶりだ、その夜は午後六時頃から眠りについたがこゝにも

戰場らしい
エピソードが

あつた、一同れむりについた夜の六時半頃騎兵隊の楠本中隊長と工兵隊の中隊長とは手兵を引つれてコッソリ敵の裝甲車分捕に出かけた、先づ敵のあり場所が解らないので持參のオートバイのヘッドライトを敵裝甲車の前方でパッと照した、それに誘はれて敵は野砲を一發、ズドンと發砲したのでして見るとかなり遠い、そこで一同鳴りを鎭めて裝甲車に近づいて行つたが早くも敵はそれと知つて逃げ出してしまつた、廿九日は午前九時半に出發わが偵察機が

偵察しては
報告筒を落す

それによると敵もいよく決戰の準備をしてゐるらしい、一同雀躍してよろこび指揮官から二三度注意されたにもかゝはらず殆どはやり足となつて進む、しかしたかが千や二千の支那兵に全部隊を打つけるのは大人氣ないとあつて本隊は盤山の手前八里子にとゞめ歩兵約八十、騎兵一個中隊・野砲二門、裝甲自動車二臺、操縦機關銃三臺の尖兵をもつておもむろに敵陣に迫る、敵は停車場を中心に双臺子河左及び鐵道線路東側にかけて半圓形の陣を築き、我軍を邀擊すべき形勢にあり零時半敵の裝甲列車は先づわが

裝甲列車に
向けて第一彈

を發射しこゝに戰鬪の火蓋が切られた、砲兵隊は發砲するのみとなつた、この時我裝甲列車は逸早く双臺子河鐵橋附近に迫りて敵裝甲列車との間に猛

それとばかり待ちかまへてゐた我が騎兵隊は先づ敵陣地右翼に向けて一齊射擊を加へ敵に多大の損害を與へ、ひるむ敵の隙に乘じて大隊にも戒田大尉の率ゐる一隊は抜刀して敵陣地に躍り込み敵の猛射を浴び乍ら双臺子河の氷上を疾驅して盤山の街中に突入して街の北側に進出しこの戰鬪における一番乘りの名譽を獲得した、我步兵裝甲自動車隊及び機關銃隊は野砲隊の掩護射擊のもとに敵に對し猛烈なる銃火を浴びせたが敵も一時は頑強に抵抗したので盤山市中は彈丸縱橫に飛び物凄い光景を呈したしかし約三十分にして敵は銃を亂して潰走しはじめ

僅かに人家
の窓によつて

猛烈なる銃火を交換したがその間にあつてわが裝甲軌動車は敵裝甲列車からの猛射を物ともせず一時五十八分停車場構內に突入して停車場を守る約五百の敵步兵隊に對し機關銃をもつて銃火の洗禮を注ぎ多數の損害を與へた、この時盤山市街北側に入つた戒田大尉の騎兵隊は西の方から攻擊した、停車場における敵の步兵及び裝甲列車が陣面から我軍の攻擊を受け收拾すべからざる混亂狀態に陷つた、折もなり

我戰鬪機は
銀翼を輝して

飛來し敵の裝甲列車目がけて上空から爆彈投下し低空飛行しては猛射を浴せかけたので敵は遂に停車場を捨て、軍用列車一輛、砲彈五〇〇、小銃三、彈丸一萬五千を殘して四散した、敵の裝甲列車は讃和子方面に逃走した、時に午後二時半である、我精銳なる武器と新戰術とに東北軍と敗殘兵の集合なる兵匪はかくして一溜りもなく一敗地にまみれたが、鐵橋上流に陣をかまへた約二百の敵は最後まで抵抗したので糎橋小隊は重機關銃により正面から、騎兵隊は側面からこれを襲擊し野砲をもつて爆擊したので流石の敵も遂に支へ切れず三時半ごろ多數の死體を殘して東北方に向て敗走した、かくて戰鬪の全く終熄したのは午後四時半であつた、盤山市中は至る處

敵の死體が
散亂し避難民

は蜘蛛の子を散らすが如く北方に逃れ慘澹たる有樣を呈した、戰鬪後の盤山市中は犬の聲さへ聞えぬ物靜けさに餘り只砲彈の命中した家屋が二三ケ所火災を起し遼西高原の寒夜を赤々と照してゐた

後方攪亂匪賊
盛んに出沒

我軍の討伐に依つて四散した匪賊は漸次田莊臺西方海岸の二界溝に蠢山、大維垣等を頭目とする機關銃及砲一門を有る六百餘の匪賊集結、更に鐵道線路以東に於ても盤山、海城兩縣境なる張家屯、家掌寺方面に約千餘名の匪賊集結を終り結氷せる遼河を渡り水源地、田莊臺方面に進出せんと我軍の間隙を狙つて田莊臺では謠言盛んに行はれ人心漸く動搖し市民は日本軍の警備を希望してゐる

山海關在留邦人婦女子
門司に到着

【門司三十日發】三十日朝天津から門司に入港した郵船北嶺丸で山海關を脫出した山口縣萩町の中川トク岡山縣人安住みちえさん等十四名の邦人婦女子が故國に引揚げて來たが交々語る

山海關は完全に敵に包圍され在留邦人中の婦女子百餘名は日本軍保護の下に十五尺の穴の中に避難してゐますが支那兵は盛んに掠奪を行ひ在留邦人の家財道具の七八分は掠奪されてゐる有樣です

愛國號
愈よ完成す
國民赤誠の結晶

【東京三十日發】國民の寄附に依つて製作中だつた第一、第二愛國號は愈々完成したので近日關東軍に輸送する運びとなつたが、輸送の途中の國民に謝恩の意を表する爲め主要都市を巡航する事となり着々準備を進めてゐる、着陸地及び日程左の如く定められた

一月十日東京代々木練兵場出發第一日仙臺、第二日立川、第三日大阪、第四日廣島太刀洗、第五日平壤、第六日奉天飛行場着

聖雄ガンジー
ボンベイ歸着

【ボンベイ二十八日發】聖雄ガンジーは本日ボンベイに歸着したが非常なる歡迎を受けた、然し當日は沈默日とてガンジーは一語も發せなかつた

陸軍始觀兵式
の壯觀を放送

【東京三十日發】陸軍始觀兵式は例年の如く一月八日代々木練兵場で行はせられるが地上部隊の兵員一萬餘の外今年は新鋭機で空中分列の壯觀も演ぜられての實況は全國に中繼放送される觀兵式の全國放送は今回が始めてゞある

大倉喜七郎男着奉

皇軍慰問のため來滿の大倉喜七郎男は三十日午後三時半着奉、一兩日滯在の上北滿に向ふ筈【奉天電話】

大觀小觀

上半期割合に平凡に終つた昭和六年は後半滿洲事變の突發によつて俄然一大變化を來し▲世界の視聽は日支兩國の態度と火元の滿洲に注がれ、殊に國聯理事會の招集は問題を一層紛糾せしめてこれを世界的に擴大し▲支那側の策謀、宣傳、惡聲、誹謗と理事諸國の認識不足、無理解、嫉視、横暴と相俟つてわが國民を一齊に憤激せしめ▲就中「兜數十三票」對「正義」の一票の爭ひに於て正義の一票が形式的に敗けの形となるや、國民の公憤はますく燃えあがつた▲而も素より正義に向ふ敵のある筈はなく▲結局正義の一票に堅い信念をもつて押し進んだわが國側に勝利の旗あがり▲滿洲に於ける我自衞權の行使には流石に干涉好きの列國も如何ともなし難く▲一方多年暴政を施して三千萬民衆を桎梏下においた舊東北軍憲は一朝にして威信を民衆に失ひ▲更にその相棒として東北軍憲と呼應し逆宣傳、煽動、計畫的排外運動の總元締めであつた舊南京政府また勢力衰へて隱退の巳むなきに至り▲お蔭で滿洲は匪賊依然各地に跳梁して良民を惱ますと雖もその反面、新興氣分勃々と擡頭し來り▲奉天、吉林、洮南、黑龍の各省政府相ついで獨立し、滿蒙新國家建設の機運漸く熟す▲而も一方錦州に占據する敗殘軍閥の無謀な對日行動、便衣隊馬賊を使嗾しての不逞振りはいよく眼にあまり▲皇軍竟に激怒して斷然これが大討伐敢行の擧に出づ▲歲末匆忙の際酷寒と匪賊軍の兩敵を向ふに廻して奮鬪するわが勇士等の姿を思ひ▲われ等は茲に筆を擱に當つて皇國の威武ますく宣揚せんことを禱り▲滿蒙の新天地に黎明の第一聲を聽かんと欲するや切である▲「手の冬の原はしらく」

婦人衛生

月經は何うして起るか
不順に對する手當法

月經が何うして起るかと云ふ問題に就ては古來から澤山の說がありますが、近來ドイツの學者グスタフ・ボルンの說によれば月經は月々卵巢から排卵の後に黃體を生じ、この黃體から分泌される物質が子宮粘膜に作用して起るのであります。…

月經困難 から來る婦人病

【以下本文 判讀困難】

大連自警々備團の一大示威運動

三十日朝忠靈塔前に參集し隊伍堂々市中を行進

時局の逼迫につれて滿鐵沿線における匪賊の跳梁は甚だしくために斷乎として起つた遼西一帶に亘る匪賊討伐の皇軍の活躍は連日目覺ましいものであるがこれに對し錦州軍は多數の便衣隊を滿洲の要都市に放つて皇軍の後方撹亂を企圖し在滿邦人に不安を感ぜしめつゝあるので大連在郷軍人を以て組織する大連自警々備團ではこの際大連市民に力強い激勵を與へると共に皇軍の留守に乘じて侵入する便衣隊の跳梁を決して宥すものではなく、また大連においても賊の如く行使し得る武力あることを示すためデモンストレーションを計畫し卅日これが實行をなした、土佐町にある大連自警々備團本部に於て岩井少將より各分團へ指令を發し午前十時半忠靈塔に集合を命じた押し迫つた暮の忙しさにも拘らず時局のため斷行したこのデモンストレーションに加はる在郷軍人は續々として忠靈塔に集つて來た、それより莊嚴な「捧銃」を行ひ直に團旗を先頭に岩井少將も徒歩で參加し隊伍堂々と行軍に移つた、午前十一時忠靈塔を發し羽衣町―連鎖街―榮町―磐城町―速町―敷島町を經て大廣場に至つたが途中多數の人が堵をなしてこれを送迎し行軍の意氣を深くして萬歳三唱の後解散した

各地の匪賊討伐

鴨江下流大東溝に大匪賊團出沒

安東守備隊何れも原隊に復し徹底的討伐計畫中

約一月鄭家屯方面出動の安東守備第○中隊は二十七日一先づ原隊に歸還し、休養の遑もなく二十八日午前三時三十五分の臨時列車で鳳凰城附近の匪賊討伐に向つたが、鴨綠江下流大東溝方面に迫撃砲を有する約一千名の匪賊出沒の報に接し再び原隊に三十日歸還、それに同じく同地附近の匪賊討伐に向つてゐた○○聯隊の近藤大尉の率ゐる第○中隊も安東に引返し安東守備隊と共同動作により大東溝方面の匪賊を徹底的に討伐することゝなり目下輸送自動車を徴發中で出來次第出動の筈、なほ出動隊は連山關板津中佐が指揮する模様で同中佐はホテルに休養中【安東電話】

鞍山の岩田大隊が鐵道西へ出動す

騰鰲堡方面の匪賊討伐

二十九日北滿より歸隊せる鞍山守備隊第○大隊上田大隊長以下○○○○名は鞍山西方騰鰲堡方面に散在する二千五百名の大匪賊討伐のため野砲二門を以て鐵道隊の軍用トラック十三臺に分乘し三島中尉の引率する乘馬隊○○名を尖兵として三十日午前十時半鐵道西に向つて出動した、また鞍山守備隊は三十日午前十一時發列車で海城に出動し岩田大隊と合して海城方面より四方臺に討伐に出動すると【鞍山電話】

鞍山守備隊初年兵

鄭家屯に出動

鞍山獨立守備第○大隊に入隊した初年兵○○○○名は成田中尉引率の下に三十日午後四時三十分發列車で鄭家屯守備に出動した【鞍山電話】

拳銃所持の怪支那人

安東署の獲物

安奉沿線は匪賊の襲撃頻々とあり安東市街にも便衣隊が潜入せりなどの説高まり安東署では不眠不休の警戒を續けてゐる際三十日午後二時過ぎ並松警部補が巡捕一名及び部落民三名を連れ蛤蟆塘街道を視察し山中にかゝりたる際前方に便衣の怪支那人二名を認め並松警部は先頭に立つてその中の一名を捉へ身體檢査をなさんとするや矢庭に逃走を企てたので之を追跡發砲して逮捕し他の一名も巡捕等の手で逮捕した、彼等は拳銃を所持せるところから見ると奥地から侵入した便衣隊員なるべく一行は二名を引致午後四時安東に引上げたがなほ同類多數ある見込みで安東署員は同地方面に向つた【安東電話】

長春西北方の匪賊團

三十日午後六時ごろ長春北十條通派出所より千米の西北方の地點に約三百餘名の匪賊團が出沒してゐるのでこれがため長春警察署では軍部と協力の上討伐すべく出動準備に忙殺されてゐる【長春電話】

水源地を狙ふ三百の匪賊

わが飛行隊の活躍に一堪りもなく潰滅す

三十日午前九時頃田庄臺水源地を距る約百米の遼河右岸の葦原の中に約三百名の匪賊現はれ水源地及び田庄臺市街を襲撃せんとしたが急報に接しわが○○○飛行場より○機飛來し賊團に爆彈を投下しこれを潰走せしめた、爆音殷々として營口附屬地にまで達した【營口電話】

匪賊田庄臺を襲ひ公安隊と激戰す

營口より應援隊派遣

三十日午後五時頃田庄臺北門に匪賊約百名現れ市街に潜入せんとし同地公安隊と盛に交戰中である同匪賊團はわが軍に撃退され一時附近部落に入り土民に變裝してゐたものであるがわが軍進撃と共にその姿を現はし勢力を集結して田庄臺市街を襲撃せんと企てたもので附近一帶には約二千の賊團あり田庄臺は再び危險に瀕した、尚營口署では同地公安隊の應援のため三十日夜警察官十名派遣の豫定である【營口電話】

賊徒遂に敗走

田庄臺北門を襲つた匪賊は公安隊の奮戰により交戰一時間の後東北方に向け潰走した市民は日本軍到着せるため安堵の色をあらはし居るが公安隊は警戒を緩めず夜襲に備へて居る【營口電話】

長春の歳末警戒

長春歳末は東支沿線の匪賊、萬寶山附近の匪賊、吉長線の匪賊、范家屯を中心とした滿鐵沿線の匪賊等で相當不安を感じてゐるが殊に吉長沿線の兵匪は歸順匪賊と歸順せぬ匪賊との見分けがつかず隨つて彼等の行動は一般に頗る脅威を與へてゐるため支那官憲は依然嚴重警戒をなしてゐる【長春電話】

湯崗子海城方面の匪賊

我部隊の北寧線方面に出動したる手薄に乘じ錦州政府の指揮に依り有力な馬賊團が湯崗子、海城方面の後方撹亂を企てつゝあるので我軍はこれ等を掃平掃滅するに決し大々的討伐を開始する事となつた【大石橋電話】

朝陽に土匪襲撃

大混亂に陷る

【大連特電三十日發】二十九日東北軍の熱河への豫定退却地點たる朝陽に單占一の率ゆる土匪約一千名が襲撃し同地は目下大混亂に陷つてゐる

奉天城内の怪音響

二十九日午後九時頃奉天城内二方面で突然天地を搖がす大音響が起り時節柄大騷ぎをしたが原因は引續き取調べ中である、ボイラアの爆發ともいひ變壓機の爆發ともいひ今尚不明である【奉天電話】

匪賊に襲はれ從軍記者遭難？

營口憲兵分隊へ密偵の報告　社名姓名共に不詳

三十日午後零時半田庄臺に到着した營口憲兵分隊に對し密偵の報告するところによれば三十日朝八時頃サイドカーに便乘し前線より營口に向け原稿輸送のため歸來せる某新聞社記者一名及び同上の支那人二名は田庄臺を去る約三里の地點南小房子の曠野においてわが軍の後方を襲はんとせる匪賊團に襲はれ一行は無殘な死を遂げた、この報告に接した營口憲兵分遣隊では河北驛守備隊その他と連絡を執り被害者の身元及びその情況の詳細を調査中であるが未だ判明しない、これがこの度の事變に際し前線に立ち働く新聞記者の最初の犧牲者として各方面に異狀なセンセーションを捲き起してゐる【營口電話】

大連各署の歳末大警戒

水も漏さぬ嚴戒振り

軍事怱忙の裡に年の暮は慌だしくも押し迫つて餘す處僅かにけふ一日、明ければ芽出度い昭和七年の一月元旦である。大連の治安を背負つて立つてゐる大連各警察署では時局柄不逞の徒出沒して物情騷然たる現狀に鑑み三十日、卅一日の兩夜は大々的警戒を行ふことになり三十日午後六時より全員の總動員を下し各署長指揮の許に連絡をとり武裝嚴めしい署員は市中目拔の場所並に賊徒の通路と覺しき要所等に立番し、一方遊動隊は絶えず市中を巡行し擧動不審の通行者に對しては一々誰何訊問し場合によつては身體檢査を行ふ等徹宵水も漏らさぬ嚴重な警戒網を張つた

工專生徒應援

南滿工業專門學校生徒八十名は山口囑託少佐指揮の下にいづれも武裝し各警察署の部署に配屬し警官を應援して寒夜の街頭に深更まで立ち盡し警戒に萬遺憾なきを期した

興隆山驛襲撃の匪賊、双陽へ逃走

卡倫驛附近の匪賊と合流か　支那討伐隊の追撃

吉長線興隆山驛北方三支里の部落へ襲撃して來た二百名の匪賊は支那討伐隊と對峙中であつたが二十九日長春より應援公安隊（公安局長引率）及び出動の率ゐる吉林警務第一大隊の討伐隊が同日午後十一時を期し總攻撃を開始し三十日午前八時頃賊は遂に双陽縣方面に向け遁走した、官兵は引續き追撃中であるが賊は逃走に際し馬二十頭その他多數の遺留品を殘してゐた、尚卡倫驛附近の匪賊も興隆山匪賊と同一行動を以て逃走したが双陽縣で合流するものと觀られてゐる【長春電話】

西本願寺の從軍布教師

各方面に活躍

西本願寺では廿六日より奉天に滿洲布教所本部を移し本部には總長代理岩本贊事、福永録事の二師が詰めて來匪を撫ひ從軍布教師の第一班は光岡、清水、伊藤の三師が廿八日營口、田庄臺方面に出發しその他嵯峨布教師も三十日河北に向つた、尚第二班は姫宮、西、南部、原の四師が三十日奉天を出發した○○旅團に隨行した、因に西本願寺は今回關東廳の各地出動警官慰問金として金二千圓を贈ることになり大連別院の西脇師が三十日關東廳に持參した

機關車に衝突トラック粉碎

トラック運轉手負傷

卅日午前九時廿五分頃大連埠頭構内において吾妻驛に向はんとする空車二八輛を曳いた二百十三號機關車（機關士北山貫一氏）と市内武藏町七十六番地昌圖公司所有トラックと衝突トラック運轉手は負傷の上車體を粉碎されたと

交通事故二件

二十八日午後零時三十分ごろ大連桃源臺一〇九貨用タクシー運轉手韓三采(三)は桃源臺より空自動車を運轉し老虎灘街道を北進中青雲臺三十五番地前に差しかゝつた際氷ほか二點を自轉車に積み同所を南行して來た明治町七小長谷政治方店員茶谷一夫(二〇)がその直前を一支那人が横斷したのに遇ひフラフラ避讓した爲め路上に轉落した氷を拾はんと後方に方向を轉換せんとした刹那に激突し自動車はヘットライトその他を破損して二十圓の損害を蒙り茶谷は自轉車を眞二つに折損された上頭部、口、鼻、腹部、右膝に打撲および擦過傷を負ひ腦震盪を起し大連醫院に擔ぎ込まれ應急手當を施したが却々の重傷である

◇

また二十九日午前六時三十分ごろ千代田町六番地前に於いて武藏町三九運轉手范傳達(三)の操縱する寺兒溝行き一號系統二一二號電車がその直前を横斷した千代田町三九馬車夫李德有(三)の荷馬車に側面衝突し荷馬車は滅茶々々に破損され電車は前部バンパーを折損し各二十五圓の損害を蒙つた

廣田大使暗殺煽動者歸國

【プラーグ二十八日發】過般モスクワで廣田大使暗殺を煽動したといはれるチエッコスロヴアキア書記官カレル・ヴアネクは事件報告の爲め目下歸國の途にある旨本日正式に發表された、然しチエッコ側は右事件には勞農側のある目的のため利用されたものと信じてゐる

僞名女給告發

大連信濃町一四〇大連會館女給マリ子こと山田美津子(二)は大連署に於て原籍高知縣安藝郡奈半利町に身許照會の結果同人は昨年十月より本年十月までの間京都に於てカフエーの女給を爲しこの十一月までは東京市外新宿龍人座に於てカフエーの女給見習をしてゐた山田小安の僞名なる事判明、三十日直に氏名詐稱で告發された

安樂椅子

最近わが軍の手により捕縛されたる匪賊の自白するところによると匪賊の中にはその組織を商人に類似せしめ居るものあり、先づ總本店を設け且つ看板を揭げ勢力擴大せば更に各地に支店を設け然して彼等の中には看板に匪賊の名そのまゝを用ひてゐるものがある。

◇

斯くて良民を裝ふてゐるが所要に應じては直に土匪と化することは恰も掌を反す如くであると。

◇

また頭目某の率ゐる匪賊七、八千は平素散居して農工に從事しその武器を自家に隱匿して置き僅に數百人のみこれを使用してゐるが一朝事あるに際し命を下せば七、八千の匪賊は全員武器を執りて暴虐を逞しうする有樣で良民と匪賊の區別全くつかぬと【奉天電話】

天氣豫報　三十一日

北西の風曇後晴

各地温度

地名	三十日午前十一時	廿九日最低
大連	零下四、二	零下九、九
旅順	同一、六	同八、六
營口	同八、〇	同一六、四
奉天	同八、五	同二〇、二
長春	同一〇、九	同二二、四

寫眞說明（上は忠靈塔前を出發の郷軍自警々備團員、下左は連鎖街附近行進、下右人物は岩井郷軍分會長）

曙の鐘 (155)

倉田潮
河野想多畫

人は皆殺す(一)

あけみは今日一日の中に、爲す可きことを總て爲しおへた。昨夜は一と晩眠らないで五里に近い山路を往き來したので、可成り疲勞はしてゐたが、それに打ち勝つ精神力が彼女にはあつた。警察から會社へと鳥渡の休む隙もなくかけ廻つて、思ひ通りに計畫をはこび最後に自分の部屋に歸つた時、彼女は元氣をしてゐる爲か、平常より疲れてゐないやうにさへ思つた。

食事が終ると、一杯の温かいコーヒーを部屋に持つて來て貰つてそれに一滴のウイスキーを落し、盃を眼の前まで差しあげた。今日一日に爲し終へた計畫と仕事との成功を祝ひたい氣持からだつた。

熱い飲み物の薫りをふいてゐると、そこへ洋館のおよりが面會を求めて來た。お冬の世話して入れた剛太郎の仲居だつた。あけみは快く彼女を迎へた。およりは部屋に這入ると、しようぜんと頭をたれたまゝ「御機嫌樣」と低い聲で云つた一今夜何うかゞひ致しましたのは、おいとま乞ひの爲めで御座いますのよ。お冬さんもいよ〳〵明日は家に歸られると云ふので、私もこの上長くゐるのも何うかと思ひますから、御ひまをいたゞかせて下さいまし」

「あゝ、さうがい」とあけみは誰にも示したことのない主人のやさしさを示した「長い間ほんとに御苦勞でしたわね。それで給料のことなぞ私はよく知らないけれど、この家を立ち去つても、行く先は心配なくやつて行けるやうになつてるの」

「いゝえ、その點はまだ何とも……」とおよりは云ひにくさうに體を揺つた「そのことで私、今夜……おうかゞひしたのですが、實は昨夜は留守に壯三さんにも鳥渡御話しておきましたの……」

「あゝ、さう〳〵。晝頃會社で兄に逢つて今度の旅行のことを話したついでに、兄もそんな事を申してゐましたわね。私の方も父剛太郎有縁の者に老後みぢめな生活はさせ度くないと思つてますから、その點は安心してゐて下さつてもいゝわ。しかし、私、お前に折り入つて御願ひがあるのよ。剛太郎の死後仲居達がぞく〳〵と皆行つてしまふと洋館ががらあきになるから、もう一年ばかりゐて貰ふ譯には行きますまいかね」

「お夏さんもゐる譯になつたとかツて聞きましたが……」

「さうよ、皆私から御願ひした爲だわ。でも、あれだけ大きい家にお夏やお露だけでは淋しいから、お前にもゐて貰ひ度いと思ふのよ」

「ゐても宜しうございますわ。でも……」

とおよりはなほ何か云ひ度げに體をもぢ〳〵させた。

「何かまだお前云ふことがあるの」

「はい」

「遠慮せずに仰有い。私、たいていのことなら聞き入れてあげるつもりよ」

と、あけみはおよりの髪の上で微な笑を浮べた。が、およりはまだ云ひ出せぬやうに、體をもんでゐた。

「おより、お前、屋敷から出す金高をきめてくれと云ふんぢやないの」

「はい」

圖星をさゝれて、およりは輕くお辭儀をするやうにうなづいた。

「きめてあげるわ」とあけみは前から考へてゐたことのやうに、澁みなく答へた「お前がこの屋敷に來た時から、一年後この屋敷を立ちのく時まで、別にひどい過失がなかつたら、五萬圓の慰勞金をあげるわ」

「五萬圓」

と思はずおよりは顔をあげた。

「さうよ、五萬圓あげるわ。別にひどい惡いことでもしない限りは……。證文をかいといてもいゝわよ、だから、もう一ケ年洋館にゐておくれな」

「なりますわ」

とあきれたやうにおよりは答へたが、その眼はこの不思議な謎を解かうとするやうに、あけみの瞳にそゝがれた。同時に彼女はあの夜自分のしたことを、あけみに見破られてゐるやうに感つてひやりとした。

大連 JQAK 三十一日午後六時十分

▲ニュース

以下内地中繼(六時三十分)

忘年演藝會

▲落語「一兩損」三升家小勝
▲浮世節「ほこりたゝき」立花家橘之助
▲落語「一目上り」春風亭柳枝
▲新作小唄(イ)唐人お吉(ロ)清唄こちやゑ(ハ)悲戀高尾唄(ニ)さこ長さん(ホ)浪花小唄、唄二三吉、三味線小静、同秀葉、洋樂伴奏
▲「語」へつつい泥棒」古今亭今輔
▲同「松ひき」桂文治
▲ジャズ小唄(イ)巴里見物(ロ)日本橋から(ハ)朗かな水兵さん(ニ)モンパパ、獨唱二村定一、日響アンサンギル
以下大連放送局より
▲天氣豫報
▲ニュース

現代(新年號)
最近常識的言葉として流行してゐる新語熟語を新年號「現代」の附録として「最新新語新知識」を添付してゐる誰人も必ず備へ置くべきものだ

滿洲日報

廿九日盤山の南方で遂に一大激戰を展開

交戰時餘にして賊軍潰走し我先鋒隊盤山に入城

わが軍〇〇騎兵聯隊の先發隊は二十八日午後一時半盤山に入城した【奉天電話】

我軍の先鋒部隊たる〇〇部隊は盤山を占據した【營口電話】

盤山南方の匪賊の大集團は塹壕を構築堅固なる防備を施し我軍に對し大石橋より飛來した飛行機は敵の射撃を避けつゝ巧に低空飛行を行つて敵集團を爆撃し歩兵隊は川村大佐の率ゆる野砲〇聯隊の掩護の下に猛烈なる攻撃を浴せ豆を煎る如き機關銃聲の中に殷々として爆彈砲彈轟き渡り玆に遼西匪賊討伐開始以來最大の激戰を展開した交戰時餘に亘り匪賊は敵せずと見るや算を亂して盤山に向つて退却を開始したが此の時若松騎兵挺身隊は大刀を振翳して逃げまどふ敵陣に躍り込み多大の損害を與へた、盤山城内に逃入した匪賊は城内各所で掠奪を開始したので我軍飛行機は更に之れに向つて爆撃し午後一時過ぎ完全に盤山を占領し我軍は更に東北方に向ひ敗走する敵を追撃中で右戰闘に於ける我方の損害未だ不明である【營口電話】

盤山の東方でも激戰

盤山に集結せる匪賊義勇軍は益々その數を增し列車砲を備へ附けた敵裝甲列車には身動きも出來ぬ程の精鋭部隊を滿載し後方よりは尚ほ續々と軍用列車到着しつゝあり、偵察中の我〇〇機に向け一齊射撃を浴びせ義勇軍の一部隊は早くも双臺子河に到着せる我多門〇師團先發部隊を撃滅すべく行動を開始、盤山東方一里の地點で目下激戰行はれ田庄臺には砲聲殷々として聞えてゐる【營口電話】

我軍の被害實數不明

二十九日午後盤山奪取の戰闘は堅固なる敵陣地と有力なる裝甲列車の抵抗により我軍も決死の攻撃を行つたが彼我共に多數の被害ある見込みなるも連絡杜絶のため實數不明である、兵匪廠の中には救國義勇軍と印せる腕章を帶びたるもの多く何れも錦州政府派遣の別働隊なること明かである【營口電話】

盤山奪取の戰闘において我軍は機關銃〇〇挺を列車に備へ敵に銃火を浴せ敵は軍用車で我軍隊に對抗したが我軍はこの軍用列車を砲撃しこれを捕獲したこの戰闘において歩兵第〇〇聯隊〇〇中隊高橋上等兵は下腹貫通銃創を受け同隊の一軍曹は右大腿部の關節部に貫通銃創をうけたこの負傷者は衞生隊來着のためガソリンカーで營口醫院に送つた【營口電話】

多門師團の主力部隊溝帮子に向け進撃す

武勳の若松騎兵隊を先驅

【盤山三十日發】盤山に宿營した多門〇師團主力は三十日午前七時宿營地を出發、盤山、溝帮子街道を前進し北寧沿線匪賊討伐第三日目の行動を開始した、これより先昨日の盤山一番乘りの榮譽に輝く騎兵〇聯隊長自ら指揮する若松騎兵隊と裝甲列車は今日もまた溝帮子一番乘りをして吳れんと午前五時勇躍先驅した

早くも我騎兵隊遭遇戰

溝帮子を攻略せば匪賊は袋の鼠

三十日午前八時三十分〇〇飛行場を出發した濱田中尉、柴田軍曹の操縱する偵察機は同九時半歸來したが、右偵察機の報告によれば溝帮子東南方二十粁の地點田水坨及び東馬廠間には敵の戰線が續いてをり既にわが先發騎兵隊と交戰中である、また盤山、溝帮子間の鐵路上には敵の軍用列車並に裝甲車が擱座されてゐると、この報告に接して爆撃すべく爆撃機二機は同十一時四十分出發した、尚わが軍は盛んに溝帮子に進撃してゐるが遲くとも三十日中には溝帮子を攻略すべく、さうなれば奉天以西より新民にかけて集結してゐる錦州軍の操縱する多數の匪賊は袋の鼠となり一擧にこれを殲滅するに至るであらう【大石橋電話】

壯烈を極めた盤山戰

負傷兵の齎らした實況

廿九日營口にて　森特派員發

二十九日盤山驛の奪取戰において劈頭肉彈戰を演じ逸早く盤山驛構内を占據して一番乘りの殊勳を樹てその身も敵彈を受けて名譽の負傷をした獨立守備隊第〇大隊第〇中隊歩兵一等兵高橋時雄君及び天野第〇〇旅團隊下の千葉鐵道部隊裝甲軌道車隊附片岡軍曹は二十九日午後六時戰場より送還され營口において療養中だが高橋一等兵は左腹部に貫通銃創を負ひ生命危篤で片岡軍曹は左足膝頭に盲貫銃創を受けてゐる兩勇士負傷の實況を聞けば當時の戰闘が如何に壯烈を極めたかを知ることが出來る、即ち天野〇〇旅團長の指揮により二十九日午前六時北寧線田庄臺驛を出發した鐵道聯隊第〇中隊の後藤中尉の指揮する裝甲軌道車隊は二輛聯結の軌道車及び裝甲モーターカー三輛を聯結して友軍の騎兵部隊と聯絡を執りつゝ北寧線兩側においてわが軍を攻撃する兵匪を掃蕩すべく進撃し盤山驛を距る約二キロの地點まで進出した際敵の裝甲列車はわが軌道車を認めて備附けの列車砲及び盤山驛附近に陣地を占めてゐた野砲は俄然一齊に火蓋を切つて我に猛射を浴びせた、わが裝甲軌道車隊は輕機關銃と小銃を以て果敢に應戰した、この時わが飛行機は盤山の上空を飛翔して敵軍を牽制した、之に力を得たわが裝甲軌道車隊は逃げる敵の裝甲列車を追撃し勇敢にも輕機關銃を以て猛射を浴せつゝ遂に午後十二時半雙臺子河鐵橋を渡つて盤山驛構内に逃込んだ敵の裝甲列車に續いて驛に突入し驛附近の線路兩側約三百米突の幅員に堅固な陣地を布いてわが軍に抵抗する敵の歩兵及び野砲隊に向つて裝甲軌道車の銃眼から一齊に猛射を浴せ之を沈默せしめ午後一時完全に盤山驛を占據した、敵は慌てふためき逃げながらも無茶苦茶に發砲し二十米突の近距離から發射した敵の一彈はわが裝甲軌道車の鐵壁を貫いて高橋一等兵の胸部を貫通し更に後方に立つてゐた片岡軍曹の左足膝頭に入つて止まつたのである、裝甲軌道車が盤山驛を占據せると同時に友軍の騎兵部隊が引續いて驛構内に入つた、かくて錦州政府軍の最前線として要害堅固を誇つた盤山はわが軍の勇戰に抗し得ず隊伍を亂して溝帮子方面に退却した

「二、三日したら又戰線に出掛けます」と前掲左の如く語る

盤山で敵と遭遇したのは正午頃で敵もなかなか頑強に抵抗しました、騎兵が下馬して散兵してゐる時私達の軌道車隊は猛進又猛進敵を驛構内に追ひ詰めた時飛來した一彈は軌道車の鐵板を打貫き前に居た高橋一等兵の下腹部を貫通し私の左膝に命中したものです、匪賊の一彈で二人も負傷するなんて殘念でたまりません、激戰一時間の末盤山驛頭高く日章旗が翻つた時痛さも忘れて萬歳を絶叫しました【營口電話】

盤山戰で負傷の二勇士容體

盤山戰で負傷した高橋一等兵は未だ言葉を發し得ぬ程の重態であるが生命には別條なき模樣、また片岡軍曹は杖に縋り歩行が出來る程で頗る元氣である【營口電話】

盤山危しとの報に錦州軍進撃を開始

三ケ列車新民に迫る

錦州軍の積極行動

錦州より歸來せる一支那人の報告によれば大凌河附近の支那軍は毫も撤退の模樣なくますます積極的

錦州軍總指揮官榮臻は營口支線の盤山驛危しとの報に接し左翼及び中央部隊に進撃を命じた、この爲左翼打通線方面へは打虎山より武器彈藥を滿載した裝甲列車續々北上し二十八日夜以來張學仁の手兵四千は鄭家屯驛の行動を開始し、わが軍は目下之を討伐中である　中央部隊も同じく打虎山より三ケ列車に滿載の正規兵が裝甲列車を先鋒として白旗堡を經て新民に向ひ進撃中である【奉天電話】

密偵隊を放つ

錦州軍の榮臻

錦西縣羅家堡子より來營した某支那人の語るところに依ると錦州軍參謀長榮臻は十二月二十四日天津より特別列車にて大凌河に來り双羊甸第十九旅司令部に於て關外駐防各旅長を召集軍事會議を開いた結果第九、十二、二各旅より各五十名を選拔して密偵隊を組織し溝帮子、田庄臺間五十名、錦州奉天間五十名、打虎山、洮南間五十名を派遣し日本軍が錦州に向け進撃を開始せるものと見て日本軍の行動を探らしめることゝした【營口電話】

學生義勇軍一千名逃亡

【北平二十九日發】平津其の他より錦州に赴いた學生義勇軍は二千五百名に上ぼつて居るが昨今の極寒と給養の惡化に堪へ上り約一千名は逃亡した

敵兵死體百餘を遺棄

盤山の激戰で

【大窪二十九日發】盤山は敵が北寧支線最後の守りとしてゐただけ塹壕等も半永久的に構築し防禦設備の立派さには我軍も驚嘆して居る程である、戰線は鐵道線路を中心に左右二里に亘り敵の總數約二千名、裝甲列車及び野砲數門を以て強硬に抵抗し特に敵野砲及び裝甲列車よりは我飛行機に對し猛射を浴せた、敵は退却に際し死體百餘を遺棄せるところより見て敵の損害は頗る大きいもの、如し

旅順待機中の艦隊

廿九日某方面出動

市内は俄に戰時氣分

旅順に待機中であつた巡洋艦八雲、第十三驅逐隊の吳竹、若竹、第十六驅逐隊の朝顏、刈萱及二十九日午後六時入港した特務艦能登呂は二十九日夜急遽出動の命令を受け喇叭を吹鳴らして上陸兵隊の緊急呼集を行ひ各艦の放照する探照燈と共に市内は俄に戰時氣分横溢し各艦は八時より九時十分に至る間に勇躍某方面に出動した、なほ某方面に向ひ陸戰隊五十名を乘せて待機中であつた帽島丸は第十三驅逐隊早蕨に護衞され三十日正午出動する筈

土肥原大佐

昨夜東京發歸任

【東京二十九日發】陸軍中央部と諸般の打合せの爲め歸朝中の奉天特務機關長土肥原大佐は二十九日午後一時東京驛發歸任した

北寧線の戰端ひらく

第〇〇旅團約三十分に亘り交戰

白旗堡方面の敵兵擊退

三十日午前八時五十分わが第〇〇旅團の裝甲軍隊は敵を西方に壓迫の後白旗堡を占據、次いで同九時三十分自動車隊來着し相合して前進、同十一時繞陽河着、此處に主力の集結を完了し第〇〇旅團長以下意氣大いに揚り直に打虎山へ進撃に移つた【奉天電話】

【三十日巨流河にて島田特派員發】三十日午前六時新民を出發したわが第〇〇旅團が北寧線上へ第一次衝突にて敵兵間もなく擊退されしものと推定さる、これと殆んど同時刻奉天發の第〇〇聯隊及び野砲隊續々來着、將兵の意氣益々昂し……九時頃々々たる砲聲白旗堡方面に當り零下二十度の寒氣に凍れる空氣を衝いて約三十分間猛烈に鳴り響ける後ハタと止んだ、右は三十日午前六時新民を出發したわが第〇〇旅團が北寧線上へ第一次衝突にて敵兵間もなく擊退

皇軍打虎山に入る

わが第〇〇旅團の先發隊は卅日午後二時打虎山に入つた【奉天電話】

山海關秦皇島の皇軍挾擊か

一大決戰の血祭に

【天津二十九日發】津浦線駐屯の第八旅、河間駐屯の第四十旅は滿洲移駐を命ぜられ既に續々出發中であるが、これは學良が錦州方面で我軍と一大決戰を試むべくその血祭に山海關、秦皇島の我守備隊を挾擊せんとの計畫的移動であるなどの情報あるので我軍は嚴戒中である

飛行場設置で偵察班出發

今川大尉の指揮する飛行第〇、第〇聯隊の偵察班は溝帮子に飛行場を設置すべく三十日の午前九時河北驛發軍用列車で同方面に出動した、又田庄臺に駐屯せる大石橋守備隊第〇大隊〇中隊の主力も同列車で盤山に向つた【營口電話】

軍用電話線修理班出發

田庄臺、大窪間の軍用電話線切斷され前線との連絡不能となつたので今朝九時河北から修理班を急派した【營口電話】

營口盤山間の鐵道開通

二十九日の我軍の盤山戰闘と同時に我〇〇鐵道隊の手によつて鐵道の應急修理完成し營口、盤山間の鐵道は早くも完全に開通した

負傷兵二名營口に後送

本日盤山に於ける激戰で名譽の下腹部貫通銃創を受けた獨立守備隊〇大隊高橋時雄一等兵（宮城縣出身）及左膝に盲貫銃創を受けた千葉裝甲軌道車隊片岡秀雄伍長（福島縣飯坂町）は午後七時二十分北寧支線で後送され營口第三埠頭に到着直に滿鐵醫院で手術を受けた高橋一等兵は重態であるが、片岡伍長は負傷兵とも見えぬ元氣さで「二、三日したら又戰線に出掛けます」と前掲左の如く語る

錦州軍の戰備全く整ふ

錦州方面視察外人の話

【天津二十九日發】錦州方面を視察して歸來した某外人は天津で語る

錦州にはあらゆる戰備整ひて居り大凌河一帶には極めて堅固な防禦陣地が築造されてゐる、更に冬籠りが出來る塹壕も完成して居り支那軍は乾坤一擲の戰爭を覺悟してゐる模樣である

學良の功賞規定

陣地を保持した旅に一萬五千元を與ふ

北平來電によれば張學良は左の如き功賞規定を錦州政府をして作らしめ極力部下の士氣を鼓舞してゐる

一、寡を以つて衆に當り晝夜を通じ陣地を保持した旅團には一萬五千元、大隊には千五百元を與ふ

二、敵軍の砲兵を鹵獲したものには之に應じ五百元乃至一萬元を與ふ

三、日本軍の小銃五挺以上及び日本軍の武裝解除したものは之に應じ二千元乃至五千元を與ふ

四、日本軍の間諜を逮捕したものには一人につき百元を與ふ【奉天電話】

嗤ふべき學良の得意

【天津二十九日發】張學良は日本に對し英、米、佛各國が日本政府に警告を發せるは彼れ自身單獨に各國公使と折衝せる結果であると宣傳し、英國公使は何處までも味方なる故列國の力により日本を窮地に陥れるは容易なことなりと得意になつてゐる

前藏相弗賣後始末問題

與黨は糾彈

【東京二十九日發】政友會は二十九日午後納めの幹部會を開き久原幹事長より井上前藏相の弗賣の後始末問題につき昨日犬養首相、高橋藏相を訪問した顚末を報告し、これに基き意見交換をなしたが結局井上前藏相は日銀を壓迫し正金を誘發し三當局共謀の上條例を無視して弗賣の思惑を敢行したるものにして三當局連帶の重大責任問題であり背任罪をも構成すべくよつて前內閣の罪惡を糾彈すると共に速かに日銀正金當局を更迭せしむべしとの強硬論に意見一致し本問題の取扱ひを久原、大口、金光、小暮の四名に一任する事に決定

佐藤軍縮全權東京驛出發

【東京二十九日發】歸朝中だつた軍縮全權委員たる駐白大使佐藤尙武氏は吉田事務官を從へ軍縮會議に對する政府の訓令案を携へ二十九日午後九時四十五分東京驛發シベリヤ經由歐洲に向つた

大藏男引揚ぐ

卅一日發東京へ

大藏公望男は今夏滿鐵理事退任以來悠々星ケ浦に自適してゐたが愈よく十餘年の滿洲生活を打上げ卅一日出帆の香港丸で聯連東京に轉住することゝなつた、なほ東京の住居は世々木富ケ谷一五〇四番地である

中島支隊新民に到着

卅日某方面へ

吉村旅團の中島支隊は二十九日午後新民に到着したが驛には我領事以下在留官民多數の出迎へがあつた、卿黨の限りを盡し跳梁せる匪賊の徹底的討伐を行ふべく卅日未明〇〇方面に出動の筈【奉天電話】

河村旅團出動

河村〇〇旅團の〇〇隊は某日某方面に出動し司令部も某日某方面に出動する事となつた【奉天電話】

廿八日戰況

二十八日多門師團の田庄臺北方地……

馮玉祥

【上海二十……】九時南……

社說

昭和六年は逝く
新滿蒙の爲に記念す可き事

今年の我國は各方面に於て多事多端であつた。但し最大事件は滿洲事變たる事云ふまでもない。實に我國民生死の大問題で殊に滿洲在住の吾々には切實の問題である。思へば滿蒙問題は我國の爲に久しい間の懸案であつた。近來の奉天政權及び南京政府の、日本に對する無法な態度が益々募るにつけても、我國は此懸案をもつと早く解決せねばならないのであつた。然るに今度の事變の結果、解決の曙光を見るに至つた。是れ我國民の大陸發展に關する今年の收穫である。吾人は先づ以て之れを祝福せねばならぬ。

◇

九月十八日、張學良氏の正規兵が我滿鐵線を破壞した事。それが動機となつて我軍隊の活動となり、舊政權の打破となつた。此處に滿蒙の住民は、彼等の搾取者壓制者たる、張氏一派の桎梏より解放され、其結果此地に新政權が生まれた。新生政權は各地に發生したばかりで、未だ十分に固まらず、又全滿の統一も取られて居ないが、併し近く統一の機運に向ふ可きは、固より推測し得る。新政權は住民の利益を代表するものである。住民を指導するに足る可き知識階級の把握する所であらねばならぬ。彼等は何等かの形式に於て新善政權を樹立せんと努力するであらう。滿洲三千萬の住民は今や、如上の希望を抱きて此年を送る。吾人は彼等の爲めにも亦之れを祝福する。只此希望を十分に活かし得るや否やは、一に三千萬の決心如何にある。又其指導者の熱誠と手腕如何に係る。吾人は彼等が、來る年に於て、發奮努力、以て此希望を空しくせざらん事を祈つて已まない。

◇

日本は元來、滿蒙の住民と慶福を共にする事を其方針として進んで來た。此方針によりてのみ、此地に於ける自己の國防、及び國民生活の目的を達し得るとの信念を持つ。故に住民を虐ぐる政權者とは利害相反する。舊政權が事毎に日本を排斥せんとしたのは、自家の暴虐が、人民に正視さるゝのを恐れ、愛國の假面を自己の保護色となし、暴虐の名を日本に着せて、人民の心目を眩ます爲であつた。然るに我國の軍事行動によつて、日本と民衆との間に介在した舊政權は無くなつた。三千萬の民衆は、此處に日本を正視する事が出來る。我國は此處に於て、彼等と慶福を分つ事を明瞭に、彼等に示し得るに至つた。新政權が住民の利益を代表する限り新政權と日本國民とは、此處に安心して手を握る事が出來る。

◇

今や、滿蒙方面に於ける日本國民の眼前に横はつて居た陰鬱な濃霧は消散した。滿蒙問題は解決の曙光を見出した。玆に日本國民の多年の希望たる、日滿兩國民共存共榮の障碍が除かれた。斯くて新生政權を助けて、世界の樂土新天地を開拓せる事は、來年の我國の任務である。之れには國際關係、匪賊の討伐、新政治の建設等に渉つて、日本自身の爲す可き事、新政權を援助す可き事、多事多端に渉つて困難が甚だ多い事は固より覺悟せねばならぬ。吾人は此覺悟の上に、今年滿蒙問題解決の曙光を認めたる悦び、來年之れが達成の希望に燃えつゝ、此處に昭和六年を送る。

滿蒙問題の根本解決が不祥事再發を防ぐ所以
廿九日奉天で日支官民を招待 南大將意圖を披瀝

目下在奉中の軍事參議官南大將は二十九日夜ヤマトホテルに日支官民代表三十餘名を招待し時局柄意義ある盛宴を催し左の如き日本帝國の滿蒙に對する意圖を披瀝した中島交渉課長これを支那語に譯しこれに對し奉天省長臧式毅氏曹日本課長の通譯にて

南大將の御說御尤もでわれ等はこれを一轉機として從前口頭だけに終つた日支提携の實をあげ東洋平和と滿蒙發展のため日支一致協力最善を盡し度い、奉天省政府成立日尚淺く成績見るべきものなきも南閣下初め本日御列席の日本官民各位の努力御指導によつて成果をあげたいと思ふ

と答辭を述べ互に乾杯し和氣靄々裡に八時散會した、尚當日の主なる出席者は

日本側本庄司令官は微恙、三宅參謀長は令夫人母堂の訃により共に缺席、高柳中將、三宅少將、村井少將、森島領事、宇佐美奉天事務所長、立川警察署長、藤田商議會頭、野口民會長、石田地方委員會議長、支那側は臧奉天省首席、于沖漢、袁金凱、趙欣伯、齊恩銘等各機關代表三十餘名である、

南大將の挨拶左の如し

今回の事變以來軍部並に在滿各機關の眞劍なる協力援助と在滿同胞各位の熱誠なる御盡力と眞面目なる國論の支持とにより事態が今日の如く極めて順調に進展したことは邦家のため同慶に堪へない次第であります、而して本事變は我等陸軍當局として在職中に起つたことでありますが故に機會あらば一度御當地に參りまして陸軍の慰問旁々實情を視察し將來の對策に資し一面諸君の奮鬪努力と陸軍の行動に對する援助について謝意を表し度いと思つて居りました處今回その機を得、親しく日支各位に面接して目的を達するを得たのは私の最も幸福とする處であります、今夕は聊か感謝の微意を表するため粗宴を設け御招待いたしました處御多忙中且つ極寒の折柄斯く多數御賁臨下された事は私のもつとも光榮とする處であります

◇

抑々滿蒙は帝國の生命でありますが故に曾ては國運を賭し十萬の生血と十數億の國帑を費し敢然として強露と戰つた次第であります、我帝國が萬難を排して滿蒙の地位を擁護すると同時に所謂門戶開放、機會均等主義によつて滿蒙の富源を開發し平和の樂土と化せしめ以て三千萬民衆の福利增進に努めることは東洋平和の大使命を有するわれわれ東洋人の當然の義務であることを確信して居るのであります

◇

然るに十數年來奉天舊政權の態度は常軌を逸し常に排日的態度に出で日本の立場に對して一點の理解なく一片の誠意なく只管滿蒙における日本の條約上の當然の權益を無視しその地位を反覆せんとして居たのであります、その結果不幸にして今回の事變發生を起すに至つたことは諸君の親しく目擊された處で今更私の喋々を要せざる處であります

◇

事變發生以來皇軍の行動は常に公明正大にして自衞權發動の範圍を逸せることは曾てありません、この公明正大なる態度は實に治安維持の信念に外ならぬもので中外の均しく認むるところと信ずるのであります、故に事變發生以來の經過は極めて順調であつて軍事行動も近く將に一段落を告げんとするに至つたことは諸君と共に欣快を禁ぜざる所で滿蒙三千萬民衆の幸福であると思ふ、しかし軍事行動一段落に達するとは言へ之を以て安心は斷じて許されぬ、何となれば滿蒙の地は三千萬民衆の安住地であり樂土であるためには將來の治安維持、產業の發達、交通の整備、經濟上の發展を圖らねばならぬがこれ等の事業はこれからであります、今回事變の如き不祥事を再び發生せしめざる爲には滿蒙問題の根本的解決を必要とするのであります、而してその解決は支那自身における今後の平和的施設においてあるのである

◇

吾人はわが國の立場をよく諒解する在滿中國人同志と共に徹底的提携を要するは勿論滿蒙問題の根本的解決は日支兩國人の直接交涉卽ち相互の完全なる諒解と心からなる提携に依つて實現すると確信致します、本日御列席の支那側各位も世界平和就中東洋平和のため且在滿各國人のため新政權に依つて善政が布かれ滿蒙を樂土たらしむることに御奮鬪あらんことを切に期待するものであります、若しそれわが正當なる軍事行動に對して謂れ無き第三國の容喙の如きは吾人は斷じて一蹴しなければならぬ、吾人は鐵道並に在留民保護の爲に最善を盡さなければならぬ、而して滿蒙を平和の樂土たらしむるの決心鐵の如く堅し、以上私の所懷を述べましたが最後に日支官民一致協力して三千萬民衆の幸福を基礎附けることに御努力あらんことを切望する次第であります【奉天電話】

新民驛に到着のわが精銳 ×印は中島聯隊長

南京新國民政府の外交方針決る
近く具體的對策を決定して 滿洲事變の眞相宣布

【上海三十日發】南京來電によれば統一なつた新政府始めの中央政治會議では錦州問題その他の外交問題及び一中全會議より交附された外交對策に就き協議したが、結局政府の外交方針を變更せず卽ち

一、國際公理に愬へ事態の擴大を防止する
二、外國の侵略に對しては正當防衞上これに抵抗する
三、東三省は確實に國民政府の管理下に置き如何なる困難に遭遇するも變更せず

の各條項を決議し右の旨學良にも電命した、なほ特別外交委員會では滿洲事變に對する具體的對策を決定したほか近く宣言を發表し事變の眞相を宣布し聯盟及び各國民の注意を喚起すると

各部々長も決定す

【南京二十九日發】新政府の各部々長は左の如く決定した

外交部長 陳友仁
財政部長代理 黃漢梁
交通部長 陳銘樞
鐵道部長 葉恭綽
陸軍部長 何應欽
海軍部長 陳紹寬
教育部長 朱家驊

治外法權の撤廢 實施を延期
對內外問題の紛糾で

【南京二十九日發】國民政府は二十九日國府緊急令を以て本年五月四日發布による治外法權撤廢實施は對內外問題の紛糾事態により實行不可能なるに鑑み明年一月一日よりの實行を暫く延期すると發表した

債權回收不能を フ米大使强調す
我政府の注意を喚起

【東京二十九日發】フォーブス大使は二十七日錦州問題に就き日本政府の回答手交の際長時間永井次官と會見しフ大使より滿洲に於ける門戶開放が日本の軍事行動に依り障害を受ける點に言及し我政府の注意を喚起した卽ちフ大使は日本軍の奉天及び重要商業都市占據の結果米國商事會社が張學良に賣渡した商品に對する債權取立が不可能に陷つたとて日本政府の注意を喚起し回收不能の一覽表を提示したこれに對し永井次官は日本は飽く迄門戶開放機會均等を尊重し居るも目下は治安回復のための過渡期と觀らるべきものである旨說明したが仄聞するに日本政府は在滿米國商事會社の舊奉天政府に對する債權は奉天新政府をしてこれを承認支拂ひ方勸告せんとするものゝ如くである

上京代表 努力を繼續

【東京特電二十九日發】全滿日本人聯合會代表上京委員一行は本月着京以來犬養首相を始め荒木陸相秦拓相等に陳情し一面民政、政友等の幹部その他に對し安問題に關係を持つ諸團體を訪ひて懇談、その援助を求めると共に政府當局及び朝野の名士を訪問するなど努力を續け緊急增兵及び錦州兵匪掃蕩の決行要請はその目的を達し得たるも如上の要請事項は年末切迫のため二十九日內田滿鐵總裁の訪問を以て一時運動を休止し新春四日の御用始めより更に猛運動を開始し目的貫徹に努め就中諸事項たる滿洲政治統一の最高機關の設置は新年劈頭の帝國議會へ法律案として政府より提出せらるゝ樣努力すると

廣田大使暗殺 煽動者歸國

【プラーグ二十八日發】過般モスクワで廣田大使暗殺を煽動したといはれるチエッコスロヴアキア書記官カレル・ヴアネクは事件報告の爲め目下歸國の途にある旨本日正式に發表された、然しチエッコ側は右事件には勞農側のある目的のため利用されたものと信じてゐる

江口副總裁 二十九日赴奉

江口滿鐵副總裁は豫て微恙を押して社務を鞅掌してゐたが時局重要事務打合せのため二十九日午後九時半急行で赴奉した

外交團錦州へ

【天津二十八日發】外國武官及外交官は昨日再び錦州へ向つた

財政的の危機脫せん
黃漢梁氏の政府入りで

司法部長 羅文幹
內政部長 李文範
實業部長 陳公博
參謀總長 朱培德
訓練總監 李濟深
軍事參議院々長 唐生智
蒙藏委員會主席 石青陽

【南京二十九日發】中央執監委員會全體會議は二十二日開會以來時に波瀾を起したるも大體好成績で今朝閉會式を行つた、これで過去四年間の獨裁政治は終りを告げ新に內閣制を採用した一致の政府が生れたのだが各方面に多大の好感を與へ最も懸念された財政部長に支那有數の富豪黃漢梁氏がすはり代理をつとめる事になつたので財政的危機も脫し得ると觀られてゐる

蔣駐日公使 辭表提出

【天津三十日發】駐日公使蔣作賓氏は外交部長更迭と共に辭表を提出後任決定まで參事官江華本氏が代理する事になつた

拔刀敵陣に躍り込み 勇まし盤山一番乘り
戒田騎兵隊の獅子奮迅、轟く砲煙
卅日盤山にて 藤井、神藏特派員發

錦家舖に一泊した多門第○師團長麾下の皇軍はいよく明日（三十日）敵の根城である盤山に向ふのだと云ふ異常な緊張ぶりだ、その夜は午後六時頃から眠りについたがこゝにも

戰場らしい エピソードが

あつた、一同ねむりについた夜の六時半頃騎兵隊の橋本中隊長と工兵隊の雙塚中隊長とは手兵を引つれてコッソリ敵の裝甲車分捕に出かけた、先づ敵のあり場所が解らないので持參のオートバイのヘッドライトを敵裝甲車の前方でパッと照した、それに誘はれて敵は野砲を一發、ズドンと發砲したので手早く音響計測器を取出して測定して見るとかなり遠い、そこで一同鳴りを鎭めて裝甲車に近づいて行つたが早くも敵はそれと知つて逸早く逃出してしまつた、廿九日は午前九時半に出發、途中わが偵察機は敵情を

偵察しては 報告筒を落す

それによると敵もいよく決戰の準備をしてゐるらしい、一同雀躍してよろこび指揮官から二三度注意されたにもかゝはらず殆どはやり足となつて進む、しかしたかが千や二千の支那兵に全部隊を打つけるのは大人氣ないとあつて本隊は盤山の手前八里子にとゞめ步兵隊八十、騎兵一個中隊、野砲二門、裝甲自動車二臺、携帶機關銃三臺の尖兵をもつておもむろに敵陣に迫る、敵は停車場を中心に雙臺子河左岸及び鐵道線路東側にかけて半圓形の陣を築き、我軍を邀擊すべき形勢にあり零時半敵の裝甲列車は先づわが

裝甲列車に 向けて第一彈

を發射しこゝに戰鬪の火蓋を切[illegible]

それとばかり待ちかまへてゐた我が騎兵隊は先づ敵陣地右翼に向けて一齊射擊を加へ敵に多大の損害を與へ、ひるむ敵の隙に乘じて大膽にも戒田大尉の率ゐる一隊は拔刀して敵陣地に躍り込み敵の猛射を浴び乍ら雙臺子河の氷上を疾驅して盤山の街中に突入して街の北側に進出しこの戰鬪における一番乘りの名譽を獲得した、我步兵裝甲自動車隊及び機關銃隊は野砲隊の掩護射擊のもとに敵に對し猛烈なる銃火を浴びせたが敵も一時は頑強に抵抗したので盤山市中は彈丸縱橫に飛び物凄い光景を呈した しかし約三十分にして敵は散を亂して潰走しはじめ

僅かに人家 の窓によつて

發砲するのみとなつた、この時我裝甲列車は逸早く雙臺子河鐵橋[illegible]に迫りて敵裝甲列車との間に猛烈なる銃火を交換したがその間にあつてわが裝甲軌動車は敵裝甲列車からの猛射を物ともせず一時五十八分停車場構內に突入して停車場を守る約五百の敵步兵隊に對し機關銃をもつて銃火の洗禮を注ぎ多數の損害を與へた、この時盤山市街北側に入つた戒田大尉の騎兵隊は西の方から擊破した、停車場における敵の步兵及び裝甲列車が兩面から我軍の攻擊を受け收拾すべからざる混亂狀態に陷つた、折りもなり

我戰鬪機は 銀翼を輝して

飛來し敵の裝甲列車目がけて上空から爆彈投下し低空飛行しては猛射を浴せかけたので敵は遂に停車場を捨て、軍用列車一輛、砲彈五〇〇、小銃三、彈丸一萬五千を殘して四散した、敵の裝甲列車は溝子方面に逃走した、時に午後二時半である、我精銳なる武器と新戰術とに東北軍と敗殘兵の集合なる兵匪はかくして一溜りもなく一敗地にまみれたが、鐵橋上流に陣をかまへた約二百の敵は最後まで抵抗したので棚橋小隊は重機關銃により正面から、騎兵隊は側面からこれを襲擊し野砲をもつて爆擊したので流石の敵も遂に支へ切れず三時半ごろ多數の死體を殘して東北方に向て敗走した、かくて戰鬪の全く終熄したのは午後四時半であつた、盤山市中は至る處

敵の死體が 散亂し避難民

は蜘蛛の子を散らすが如く北方に逃れ慘澹たる有樣を呈した、戰鬪後の盤山市中は犬の聲さへ聞えぬ物靜けさに歸り只砲彈の命中した家屋が二三ケ所火災を起し遼西高原の寒夜を赤々と照してゐた【[illegible]】

大觀小觀

東北の將士、一度怒つて起てば百萬の日本軍も鎧袖一觸のみ、諸君の奮鬪を望む▲學良の錦州軍に對する命令は例によつて支那一流の大言壯語だ、嗤ふべし▲之は確に訂正を要する、實際は反對に斯うでなければなるまい▲東北の將士（鬼多門麾下の精銳）一度起つた以上百萬の兵匪も鎧袖一觸のみ、諸君恐ろしくはないか▲印度の聖雄ガンヂー、英國から歸印匆々「戰爭の用意をせよ生命を犧牲にせよ」と反英抗爭の第一聲を擧ぐ、無抵抗主義では問緩しと見たのだな▲その癖、賤民階級義勇隊なるものが反ガンヂー運動を起し流血の慘まで演じたのは一體何うしたものか▲「雨霰聲譁歲欲窮、平生報國寸心忠、不知弗買非耶是、遠脫汗紛訪滿蒙」の一詩宜ろしく聰松男來滿▲曾ては「滿蒙の風物皆これ不純の羅誌」と觀じた老人があつた▲その物質的なるに比すれば之は餘程精神的ではあるが若しかして「富者の萬燈的軍隊慰問」に終らればよいが▲「毛皮帽ぬくく」と自動車の客過ぎて行く」

大連自警々備團の一大示威運動

三十日朝忠靈塔前に參集し隊伍堂々市中を行進

時局の逼迫につれて滿鐵沿線における匪賊の跳梁は甚だしくために斷乎として起つた遼西一帶に亘る匪賊討伐の皇軍の活躍は連日目覺ましいものであるがこれに對し錦州軍は多數の便衣隊を滿洲の要都市に放つて皇軍の後方攪亂を企圖し在留邦人に不安を感ぜしめつゝあるので大連在鄕軍人を以て組織する大連自警々備團ではこの際大連市民に力強い激勵を與へると共に皇軍の留守に乘じて侵入する便衣隊の跳梁を決して宥すものではなく、また大連においても斯の如く行使し得る武力あることを示すためデモンストレーションを計畫し卅日これが實行をなした、土佐町にある大連自警々備團本部に於て井上少將より各分團指令を發して午前十時半忠靈塔に集合を命じた押し迫つた暮の忙しさにも拘らず時局のため斷行したこのデモンストレーションに加はる在鄕軍人は續々として忠靈塔に集つて來た、それより莊嚴な「捧銃」を行ひ直に團旗を先頭に岩井少將も徒歩で參加し隊伍堂々と行軍に移つた、午前十一時忠靈塔を發し羽衣町―連鎖街―榮町―磐城町―達町―敷島町を經て大廣場に至つたが途中多數の人が堵をなしてこれを送迎し行軍の意氣を深くして萬歲三唱の後解散した

各地の匪賊討伐

鴨江下流大東溝に大匪賊團出沒

安東守備隊何れも原隊に復し徹底的討伐計畫中

約一月鄭家屯方面出動の安東守備第〇中隊は二十七日一先づ原隊に歸還し、休養の遑もなく二十八日午前三時三十五分の臨時列車で鳳凰城附近の匪賊討伐に向つたが、鴨綠江下流大東溝方面に迫擊砲を有する約一千名の匪賊出沒の報に接し再び原隊に三十日歸還、それに同じく同地附近の匪賊討伐に向つてゐた〇〇〇騎兵隊の近藤大尉の率ゐる第〇中隊も安東に引返し安東守備隊と共同動作により大東溝方面の匪賊を徹底的に討伐することゝなり目下輸送自動車を徵發中で出來次第出動の筈、なほ出動隊は連山關板津中佐が指揮する模樣で同中佐はホテルに休養中【安東電話】

鞍山の岩田大隊が鐵道西へ出動す

騰鰲堡方面の匪賊討伐

二十九日北滿より歸隊せる鞍山守備隊第〇大隊岩田大隊長以下〇〇〇名は鞍山西方騰鰲堡方面に散在する二千五百名の大匪賊討伐のため野砲二門を以て鐵道隊の軍用トラック十三臺に分乘し三島中尉の引率する乘馬隊〇〇名を尖兵として三十日午前十時半鐵道西に向つて出動した、また鞍山守備隊は三十日午前十一時發列車で海城に出動し岩田大隊と合して海城方面より四方臺に討伐に出動すると【鞍山電話】

鞍山守備隊初年兵

鄭家屯に出動

鞍山獨立守備第〇大隊に入隊した初年兵百二十一名は成田中尉引率の下に三十日午後四時三十分發列車で鄭家屯守備に出動した【鞍山電話】

わが警官隊賊團と交戰

海城勤務鳴塚警部補は二十七日午前零時四十分巡查五名自警團七名を隨へ海城附屬地境界牛莊街道附近を警戒中附屬地に接近せんとする十數名の賊團を發見誰何せるに矢庭に所持拳銃を以て抵抗し來れるを以てこれに應戰發砲約二十分にして西方部落に擊退した然るに匪團は俄にその數を增し部落より盛んに發砲せしため海城野砲隊に連絡の上砲二門を發射擊滅した【大石橋電話】

水源地を狙ふ三百の匪賊

わが飛行隊の活躍に一堪りもなく潰滅す

三十日午前九時頃田庄臺水源地を距る約百米の遼河右岸の葦原の中に約三百名の匪賊現はれ水源地及び田庄臺市街を襲擊せんとしたが急報に接しわが〇〇〇飛行場より〇機飛來し賊團に爆彈を投下しこれを潰走せしめた、爆音殷々として營口附屬地にまで達した【營口電話】

明日安東を襲擊の計畫

鴨江上流の匪賊

鴨綠江下流龍王廟は過般匪賊の出沒にて安東守備隊と安東警察署員が出動、これを掃蕩、邦人、鮮人を安東に避難せしめたが同地附近に約一千名以上の匪賊集團し目下同地に滯在中で本月三十一日頃安東を襲擊する計畫中、安東では警戒を益々嚴重にしてゐる【安東電話】

海軍の警戒隊

再び塘沽へ

塘沽に向け出發した海軍警戒隊五十名は荒天浪高いために一旦旅順に引返したが再び三十日午前九時嶋島丸で塘沽に向け出發した

長春の歲末警戒

長春歲末は東支沿線の匪賊、萬寶山附近の匪賊、吉長線の匪賊、范家屯を中心とした滿鐵沿線の匪賊等で相當不安を感じてゐるが殊に吉長沿線の兵匪は歸順匪賊と歸順せぬ匪賊との見分けがつかず困つて彼等の行動は一般に頗る脅威を與へてゐるため支那官憲は依然嚴重警戒をなしてゐる【長春電話】

朝陽に土匪襲擊

大混亂に陷る

【大連特電三十日發】二十九日東北軍の熱河への豫定退却地點たる朝陽に馬占一の率ゆる土匪約一千名が襲擊し同地は目下大混亂に陷つてゐる

奉天城內の怪音響

時節柄大騷ぎ

二十九日午後九時頃奉天城內二方面で突然天地を搖がす大音響が起り時節柄大騷ぎをしたが原因は引續き取調べ中である、ボイラアの爆發ともいひ墜落機の爆發ともいひ今尙ほ不明である【奉天電話】

興隆山驛襲擊の匪賊、双陽へ逃走

卡倫驛附近の匪賊と合流か　支那討伐隊の追擊

吉長線興隆山驛北方三支里の部落へ襲擊して來た二百名の匪賊は支那討伐隊と對峙中であつたが二十九日長春より應援公安隊（公安局長引率）及び蔡動の率ゐる吉林警察第一大隊の討伐隊が同日午後十一時を期し總攻擊を開始し三十日午前八時頃賊は遂に双陽縣方面に向け逃走した、官兵は引續き追擊中であるが賊は逃走に際し馬二十頭その他多數の遺留品を殘してゐた、尙卡倫驛附近の匪賊も興隆山匪賊と同一行動を以て逃走したが双陽縣で合體するものと觀られてゐる【長春電話】

激勵に只管感謝

死を賭してつくす考へ　山本指揮官着奉語る

岡山聯隊が在滿邦人と東北三千萬民衆の待望を双肩に擔ひ朔風吹きまくる滿蒙の曠野に出動派遣を命ぜられ去る廿一日渡滿の途に就く際同指揮官山本少佐は岡山縣津山商業學校五年生廿七名から揃つて血書の激勵文を受け出發し大連經由廿八日着奉宿泊したが同少佐を訪へば語る

內地を出發に際しては商業生の血書の激勵文を受けたばかりでなく岡山といはず宇品と云はずその他沿線各地で熱烈な歡迎を受けた、血書を作つた商業生は軍事教育のためこの聯隊から教官が教練をなし丁度去る十一月津山市を中心に行はれた姬路師團の秋季演習に際し自分が津山商業生の指揮をなしたことと滿洲事變に關する講話をなしたその直後滿洲出動が命ぜられたので感激した事と思はれるがこの上は死を賭して祖國のため盡すのみである、岡山を出發する際は滿洲は大分寒氣が強いと聞き覺悟をして來たが取り立てゝ云ふ程の寒さを覺えない、何にしてもこれまで全部揃つて唯一人の事故もなく奉天まで着くことが出來たのは何より喜ばしい、そして我隊が今後どう動くかサッパリ判らぬ、奉天着後も岡山縣その他町內會などの人々から色々手厚い歡迎を受け只管感謝してゐる次第である【奉天電話】

匪賊討伐に出て今次事件を惹起

徐文海の人となり

安奉線鳳凰城附近は頻々として事件發生し全く不安にかられてゐるが同附近を荒し驛、派出所等を襲擊せる匪賊の一團は元鳳凰城公安隊長徐文海の一味で彼は頑强なる氣質を有してゐる記者は二十九日元鳳凰城の團長をなし目下安東公安局長たる妻氏を訪れ徐文海のことに就き尋ねたるに通譯を通じ自分は徐のゐる時は團長であり軍人であるから警察とは畑違ひであるが自分の知つてゐるだけは話しませうと冒頭しながら左の如く語つた

現在錦州第四旅團長となつてゐる黃某が事變前奉天警察署長時代徐はその部下であつたが今年三月に鳳凰城公安隊長に來たもので生れは河南省と聞いてゐるが、今年丁度三十六歲で、事變の際は奧地に匪賊討伐に向つてそのまゝ歸つて來ず奧地で部下を多數集め今回の如き事件を起したのも全部徐の命令だらうと思ひます、彼には妻があつたが事件と共に原籍に歸つたらしいです、なほ鄧鐵梅は元鳳凰城の公安局長をしたもので非常な排日家で漢學者です、目下は徐より鄧の方が勢力有力なやうである【安東電話】

滿蒙新國家の國旗

赤黃黑の三色旗とし一月一日から使用

滿蒙新國家の旗印は從來種々に傳へられてゐたが奉天省政府では來る正月元旦の祝賀並びに新國家建設のデモンストレーションに使用するためその制定を急いだ結果赤、黃、黑の三色旗と定め管內各縣を始め吉林、黑龍江兩政府へも二十九日その色彩と寸法を通達した【奉天電話】

修養團で慰問

募集金を贈る

修養團大連聯盟が去る十三日より十六日まで市內各所で傷病兵慰問並に社線外派遣滿鐵社員慰問金の募集をなしたがその額は五百八十八圓八十五錢に達したのでその內百圓を滿鐵社員會の手を經て社線外派遣員に贈りその他は旅順及び大連衞戍病院に傷病兵慰問と十五日內地還送四十三名及び二十九日內地還送百〇四名の傷病兵に贈つた

三宅參謀長夫人の母堂逝く

三宅關東軍參謀長夫人の母堂高山キク刀自は去る二十三日より病氣に罹り關東廳病院に入院療養中であつたが遂に二十八日午後九時半逝去した、享年六十七歲、告別式は三十一日午後二時自宅において執行される

大連の上空を重爆機飛ぶ

轟々の爆音勇ましく鮮やかな演習飛行

長距離耐寒飛行演習のため來連中の濱松第七飛行聯隊重爆機三機は三十日午前九時から交々く周水子飛行場を離陸し研究および準備飛行を行つた、即ち九號機には原大尉ほか五名、十四號機には黑田大尉ほか五名各搭乘し場附近を飛行し八號機には笹尾中尉ほか五名搭乘し場內を一周の上機首を南に向けて大連上空に飛來し折柄の寒天に爆音轟々鵬翼を輝かしながら悠々旋回して鮮かな飛行振りを示し、周水子飛行場に歸還した、この飛行時間約四時間頗る好成績を示した、なほ三十一日も早朝より試驗飛行を行ふ筈である

機關車に衝突

トラック粉碎　トラック運轉手負傷

卅日午前九時廿五分頃大連埠頭構內において吾妻驛に向はんとする空車二八輛を曳いた二百十三號機關車（機關士北山貫一氏）と市內武藏町七十六番地昌圖公司所有トラックと衝突トラック運轉手は負傷の上車體を粉碎された

藤田新香港船長

天津內地間定期船長城丸船長藤田勇喜次氏は今回大連內地定期船香港丸船長に榮轉廿九日入港と共に吉田事務長東道のもとに市內各方面挨拶廻りをなした

安樂椅子

出動軍隊の送迎に對する大連市民の熱と意氣は眞に赤誠の現はれとして涙ぐましいものがあるが姬路旅團が上陸した廿六日、師走の街頭で拾つた美談二つ

◇

市內常盤橋附近の或る壽司屋の店先で三人の兵隊さんと壽司屋の主人とが大聲あげての口論、ハテ何事が起つたかとそつと事情を聞いて見ると兵隊達が壽司を三、四人前と蜜柑十餘本とをペロリと平げ代金を拂ふとする時壽司屋の主人が飛出して「極寒の奧地へ戰爭にゆかれる兵隊からお金は戴けません、どうか遠慮なくお出下さい」といふに兵隊さん達も義理固く「わざわざ店へ入つて食つたのに支拂はぬといふ法はない」とお互が美しい心から讓歩せず、はたで見てゐると喧嘩のやうに見えたのだが結局兵隊さん達が五十錢出して解決したとは聞くも喜ばしい氣組である。

◇

もう一つは廿六日の夕方、同じ常盤橋附近で一指揮官が十數名の兵士を前に「これから民家に散宿するのであるが兵營と違ふから成るべく靜かに行動するがいい」と一條の訓辭を與へた、これを後で聞いてゐた五十前後のお婆さんがズカズカと指揮官の前に進み出で「これから命を的に戰かれるのですもの、靜かになんかして居るとはありません、遠慮なくドンドン騷いで下さい」と涙ボロボロ、これを聞いた鬼のやうな指揮官を初め兵士達や通行人も涙ボロボロ、美はしいシーンであつた。

天氣豫報　三十一日

北西の風曇後晴

各地溫度

	三十日午前十一時	廿九日最低
大連	零下四、二	零下九、九
旅順	同一、六	同八、六
營口	同八、〇	同一六、四
奉天	同八、五	同二〇、二
長春	同一〇、九	同二三、四

寫眞說明（上は忠靈塔前を出發の鄕軍自警々備團員、下左は連鎖街附近行進、下右人物は岩井鄕軍分會長）

曙の鐘 (155)

倉田潮

河野想多畫

人は皆殺す(一)

あけみは今日一日の中に、爲す可きことを總て爲しおへた。昨夜は一と晩眠らないで五里に近い山路を往き來したので、可成り疲勞はしてゐたが、それに打ち勝つ精神力が彼女にはあつた。警察から會社へ、と鳥渡の休む閑もなくかけ廻つて、思ひ通りに計畫をはこび最後に自分の部屋に歸つた時、彼女は亢奮してゐる爲か、平常より疲れてゐないやうにさへ思つた。

食事が終ると、一杯の温かいコーヒーを部屋に持つて來て貰つてそれに一滴のウイスキーを落し、盃を眼の前まで差しあげた。今日一日に爲し終へた計畫と仕事との成功を祝ひたい氣持からだつた。

熱い飲み物の燻りをふいてゐると、そこへ洋館のおよりが面會を求めて來た。お冬の世話して入れた剛太郎の仲居だつた。あけみは快く彼女を迎へた。およりは部屋に這入ると、しようぜんと顔をたれたまゝ

「御嬢樣」と低い聲で云つた「今夜伺うかゞひ致しましたのは、おいとま乞ひの爲めで御座いますのよ。お冬さんもいよ／＼明日は家に歸られると云ふので、私もこの上長くゐるのも何うかと思ひますから、御ひまをいたゞかせて下さいまし」

「あゝ、さうかい」とあけみは誰にも示したことのない主人のやさしさを示した「長い間ほんとに御苦勞でしたわね。それで給料のことなぞ私はよく知らないけれど、この家を立ち去つても、行く先は心配なくやつて行けるやうになつてるの」

「いゝえ、その點はまだ何とも……」とおよりは云ひにくさうに體を捻つた「そのことで私、今夜……おうかゞひしたのですが、實は昨夜は留守に壯三さんにも鳥渡御話しておきましたの……」

「あゝ、さう／＼。書畑會社で兄に逢つて今度の旅行のことを話したついでに、兄もそんな事を申してゐましたわね。私の方も父剛太郎有緣の者に老後みぢめな生活はさせ度くないと思つてますから、その點は安心してゐて下さつてもいゝわ。しかし、私、お前に折り入つて御願ひがあるのよ。剛太郎の死後仲居達がぞく／＼と皆行つてしまふと洋館ががらあきになるから、もう一年ばかりゐて貰ふ譯には行きますまいかね」

「お夏さんもゐる譯になつたとか聞きましたが……」

「さうよ、皆私から御願ひした爲だわ。でも、あれだけ大きい家にお夏やお露だけでは淋しいから、お前にもゐて貰ひ度いと思ふのよ」

「ゐても宜しうございますわ。でも……」

とおよりはなほ何か云ひ度げに體をもぢ／＼させた。

「何かまだお前云ふことがあるの」

「はい」

「遠慮せずに仰有い。私、たいていのことなら聞き入れてあげるつもりよ」

と、あけみはおよりの髪の上で微な笑を浮べた。が、およりはまだ云ひ出せぬやうに、體をもんでゐた。

「およりお前、屋敷から出す金高をきめてくれと云ふんぢやないの」

「はい」

圖星をさゝれて、およりは輕くお辭儀をするやうにうなづいた。

「きめてあげるわ」とあけみは前から考へてゐたことのやうに、澱みなく答へた「お前がこの屋敷に來た時から、一年後この屋敷を立ちのく時まで、別にひどい過失がなかつたら、五萬圓の慰勞金をあげるわ」

「五萬圓」

と思はずおよりは聲をあげた。

「さうよ、五萬圓あげるわ。別にひどい惡いことでもしない限りは……。證文をかいといてもいゝわよ、だから、もう一ケ年洋館にゐておくれな」

「をりますわ」

とあきれたやうにおよりは答へたが、その眼はこの不思議な謎を解かうとするやうに、あけみの顔にそゝがれた。同時に彼女はあの夜自分のしたことを、あけみに見破られてゐるやうに思つてひやりとした。

大連 JQAK

三十一日午後六時十分

▲ニュース

以下内地中繼(六時三十分)

▲落語「一眼國」三升家小勝

忘年演藝會

▲浮世節「ほこりたゝき」立花家橘之助

▲落語「一目上り」春風亭柳枝

▲新作小唄(イ)唐人お吉(ロ)替唄こちやゑ(ハ)悲戀高尾唄(ニ)さこ長さん(ホ)浪花小唄、唄二三吉、三味線小靜、同秀葉、洋樂伴奏

▲落語「へつつい泥棒」古今亭今輔

▲同「松ひき」桂文治

▲ジャズ小唄(イ)巴里見物(ロ)日本橋から(ハ)朗かな水兵さん(ニ)モンパパ、獨唱二村定一、日響アンサンブル

以下大連放送局より

▲天氣豫報

▲ニュース

附録

盤山大激戦のフオトニユース

二十九日盤山にて　山口晴康本社特派員撮影

寫眞說明

（1）双臺子河鐵橋を渡るわが第〇〇聯隊の精鋭

（2）盤山驛を占據の日本軍

（3）敵陣めがけて猛射を浴びせる我野砲隊

（4）活躍する多門師團の騎兵隊（戰家舖附近にて）

（5）凍れる双臺子河を渡るわが歩兵部隊